

# おい図書館

No.193

発行  
代表  
おい図書館  
青木 和子  
松本市牧の原 104-416  
TEL 047-311-0886

## 講演会

「教育って何だろう。」

ドイツで考えたこと」

武笠紀子

2017

(1)

6月7日(土) 女性センター研修室にて、松戸市教育委員会委員長のとして10年間(教育委員として12年間勤められた関英昭さん(青山学院大学名誉教授)の講演会が開催されました。

「おい図書館」・「松戸市PTA問題研究会」・「松戸の教育を考える市民フォーラム」の共催です。参加者は33名。ダブルの会員をはじめとする市民と共に、松戸市教育委員、元教育委員長、教育企画課長、市議会議員等の参加も

ありました。

関さんの専門分野は教育ではなく「法律」であり、その法律の勉強のためにドイツに留学し、研究論文を書いたこと、子どもをドイツの学校へ通わせたこと等の経験からドイツの教育についての考え方や、専門の法律的な面から見たドイツの教育についての話と、松戸市の教育委員(長)として経験したことを話されました。

ドイツでは、暮らしにキリスト教の影響が大きく、宗教教育も行われていること、子どもの宗教教育に関する法律もあり、14歳で「宗教上の成人」となることなど、子どもの成長段階に

応じた法的な権利の違いを、ドイツ連邦が作成した「子育て入門書」でアドバイスしていることが紹介されました。年齢別に細かく規定されています。「子どもは自分で考え、自分で意思決定し、行動し、その結果に対して責任をとる」ことを学びます。特に、家庭でも学校でもしつけの基本は、子どもが「何故そうしたか」を言葉で説明できるまで「じっと待つ」こととされています。教育とは「市民になるための勉強」であるということに心が残りました。

教育委員長としての経験からは、教育基本法第一条の「教育の目的」について、常に考えていたこと。2006(H18)年の改定で学校教育・社会教育・家庭教育と区分したが、「家庭教育」の基準は難しいと感じたこと。2014(H26)年の改定で首長の教育への介入が進み、教育委員長が廃止されたこと。教育現

場は、子どもも教師も多忙過ぎる。義務教育で大切なことは、子どもが「自分の頭で考える」訓練をすること。大人（教師も）は見守ること。このために必要なことは、教師の増員・教師の勉強時間の確保・サバテカル制度（研究などのために一定期間与えられる長期有給休暇）、退職教師の活用。

最後に、「教育って何だろう？」について、三つの提起を考え方に

ついて話されました。  
問①…親や教師は、孔子の論語から「有教無類（人間の天性は大体同じだが、習うことで善悪賢愚の差が大きくなる）」を教育の基本においているか？

問②…未成年者状態でなくなるために、我々は何を為すべきか？  
カント：「啓蒙とは、人間が、自分の未成年者状態から抜け出ることである。」

問③…我々は、ワイツゼッカー

から何を学ぶか？日本人は、歴史を水に流そうとしていないか？  
「過去に目を閉やす者は、現在にも盲目になる」（第二次世界大戦終了40周年記念演説より）  
現在、関さんは、ゲマインシヤフト（共同体）からゲゼルシヤフト（社会・組合・会社）への移り変わりについて研究されているとのことでした。



参加者アンケートより

義務教育で大切なことは「自分で考えること」という言葉に賛同しました。

「法律は倫理」という話が、興味深かったです。

普段、3人の子育てをし、仕

事では特別支援教育に携っている中で、教育について自分でも疑問に思っていることのヒントを頂きたくて参加しました。

常に考え続けて、子どもに背中を見せられる、人間を大切にできる大人になりたいと思いました。こういう場があったら、また教えて下さい。

ドイツとの比較は、興味深く思いました。

貴重な、身近なお話をありがとうございました。

とある小さな大学図書館で働かせて頂いておりますが、深く共感できるお話が沢山ありました。殊に、ドイツでのご経験が興味深かったです。生活の中に宗教がとけこんでいることを、身体で感じたことを思い出しました。



ドイツの宗教教育及び少年保護については、具体的に興味深い。「子育て入門」両親と若い人達への「アドバイス」では、0歳〜14歳が細かく分けて規定され、14歳以上は自分で宗教を決定し変更することが出来る。これを「宗教上の成人」という。

14歳〜18歳未満については、労働・運転・婚姻・自由意志による社会奉仕などについて細かく規定され、18歳になると「成人」となり、すべてにおける自己決定権と刑事責任が生ずる。両親、監護権者または親権者は、子どもが成人するまでは責任があるとされる。外国人への奨学金の話は、羨ましい。

国の将来は子どもたちにかかっています。その子どもたちを育てる教育行政機構が日本では貧弱であることが、改めて分かりました。

今後も注視して行きたいです。しかし、祖母として、それ以前に母として「しつけ」を反省しました。

「教育」を考えるための良い機会になりました。これは、現在の日本の政治状況を考える事にもなります。

「子どもは自分で考え、自分で意志決定し、その結果に対して責任をとる」ということ。

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目になる」の文意は大切な言葉と受け止めました。

「最後の」教育長…この意味がよく分からなかったのですが、「教育委員会Q&A」の説明でよく分かりました。確かに「最後の」ですね。

教育って何だろう?...お話をすると、つまり「市民になる

ための勉強」ということなのです。が、そうすると、市民としての権利と義務を法体系に基づいて学習する必要があると思うのです。

が、日本では学校であまり教わった記憶がありません。法体系から外れた「道徳」という形で...なのでしょう、うか?

レジュメを拝見すると、ドイツでは法律に基づいた教育を、法律を重視して行っているようです。もう少レ、そのところろ(主権者教育?)を、日本と対比させてお聞きしたかったです。また、次の機会に...お願いします。



教育委員会とは？

文責 青木和子

1948年、戦前の国家主義的、中央

(4)

集権的文部行政への反省のもと、住民参加・地方分権・一般行政からの独立を原則として、「教育委員会法」が制定された。

教育委員会は、教育・文化に関する権限を持ち、首長（自治体の長）部局から独立した行政機関として設置された。学校の設置及び廃止、管理、教育内容の決定、公民館・図書館・博物館などの社会教育、スポーツ行政等を管轄。その権限に属する事務は事務局が担当する。松戸の場合、事務局は京葉ガスビル内に置かれている。

狭義の「教育委員会」は、数人の教育委員から成る合議制の行政委員会を指すが、合議制委員会に事務局を併せた組織全体を「教育委員会」とも呼ぶ。

教育委員会法の制定当初、委員は公選制だったが、1956年の全面改定で「地方教育行政法」となり、公選制は廃止された。

教育委員は、首長が「人格高潔、教育・学術・文化に識見を有する者」を、「年令・性別・職業に偏りが無い」ように、議会の同意を得て任命する。

現在、松戸市教育委員会の構成は、元校長（市教育長）、司法書士、医師、美術家、元外交官、保健師（うち女性2名）。毎月一回の定例会議及び臨時会議を開催（公開）。議決された案件を、教育長以下の事務局が執行する。

「教育委員長」は、上記の教育委員による互選で選ばれていたが、2014年の「地方教育行政法」の改定により、教育委員長職は廃止された。このような経過があり、関英昭さんは文字通り「最後の」教育委員長となった。

行政の長としての首長が招集する「総合教育会議」は年間数回開催され、「教育大綱」の策

定など重点的に構すべき施策や緊急の場合に構すべき措置について、協議・調整を行う。教育委員会は、引き続き執行機関として、職務権限は従来通りとする。

毎月の定例会議教育委員会会議は、教育長が教育委員の中から職務代理者として選任した議長に議事を委任して進められている。

松戸市においては、本郷谷市長が「教育に関して具体的な口出しはしない」旨を明言されており、伊藤教育長の方針とも併せて、教育の自由は守られると信じます。関さんが示して下さった方向性が曲げられることなく進んで欲しいと願いつつ、これから傍聴を続けたいと思っています。

